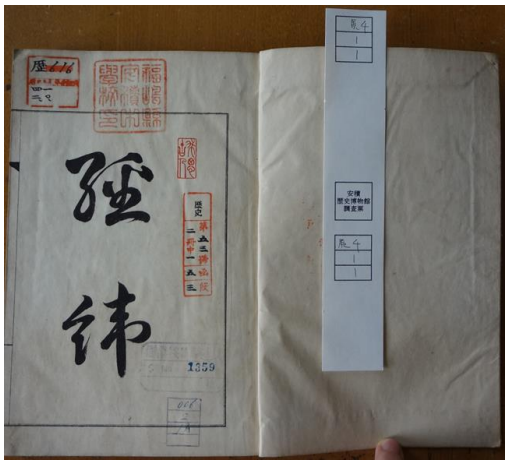
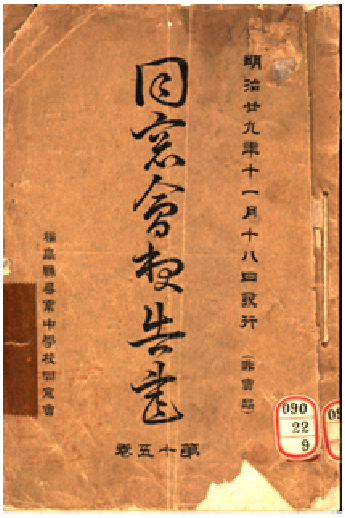
研究代表者	所属学系・職名　法・行政・社会学系・准教授 氏　　名　新藤　雄介
研究課題	旧制安積中学校関係資料による読書文化史の基礎的研究 Study on the Reading Culture in Asaka Junior High School Before 1945
成果の概要	**【1.　旧制安積中学校について】** 旧制安積中学校は1901年に誕生するが、それまでには多くの変遷がある。1884年に福島中学校・平中学校・若松中学校が設立されるが、2年後にこれらが福島尋常中学校に統合される。その翌年に、福島県尋常中学校となる。その2年後に安積に移転となり、1889年に福島県第一尋常中学校と変更される。これが、改称され、1901年に福島県立安積中学校となった。戦後には、1948年に福島県立安積高等学校となる。今回の調査先である安積歴史博物館は旧制安積中学校の校舎を使用しており、学校の100 周年記念事業の一環として 1984 年に開設された。ここに、福島尋常中学校以降の学校文書や蔵書などが、引き継がれ保存されている。 **【2.　資料の状況について】** 蔵書資料のうち、和装本については、博物館開設時の『安高図書館よりの寄託図書目録』があり、当時の所蔵状況を知ることができる。また、現在の安積高等学校図書館には 、1948 年の学校図書館開設間もない頃に作成された手書きの所蔵図書原簿が保管されている。そこには、戦前の洋装本約 8500 タイトルが掲載されている。 また、学校文書については創立100周年事業で収集が行われた。その際に寄贈された教科書、日記、通信簿などの資料類が『安積歴史博物館 寄贈・寄託品 目録』にまとめられている。 現存している資料は、旧蔵書として和装本が約 5000 点、学校文書が約 5000 点と見込まれている。  **【3.　調査について】** 2022年3月12日　第1回会議　オンライン 2022年3月29-30日　予備調査　安積歴史博物館 2022年5月14-16日　第1回現地調査　安積歴史博物館 2022年7月24日　第2回会議　オンライン 2022年10月1-3日　第2回現地調査　安積歴史博物館 2022年11月12日　洋装本整理作業　安積歴史博物館 2022年12月10日　資料電子化準備作業　安積歴史博物館

調査にあたって2022年度は、蔵書資料群の和装本の調査を進めることとした。そのため、学校資料群の調査は和装本の完了後に行うこととした。調査・研究に当たっては、資料が膨大なため、新藤個人のテーマを持ちながら、早稲田大学の和田敦彦氏のリテラシー史研究会に加わる形で、研究グループとして全体的な調査を進めていった。

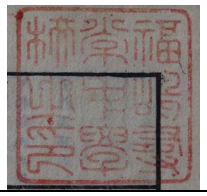
第1回会議では目録のフォーマットや調査内容について検討した。その後、新藤を含むグループ数名で現地での予備調査を行い、最終的な目録フォーマットを決定した。

5月に3日間の現地調査を行い、所在（展示、収蔵棚名）、番号、枝番号、書名、書名（かな）、著者名、著者名（かな）、年月日、刊写、形態、出版者、備考、国内他機関での所蔵状況、資料の蔵書印・管理印、といった情報の入力を行った。この調査で、和装本約300 タイトル、約1800 冊が完了した。

10月に2回目の現地調査を行い、和装本約180タイトル、約1200冊の情報入力が完了した。この調査の過程で、同じ敷地内にある安積高校の図書館に、戦前の洋装本が収蔵されていることがわかった。高校では図書館を解体し、新築する計画であったため、これらの洋装本の多くについて博物館に移動させることにして、11月に実施した。



また、旧制安積中学校では1890年から1943年にかけて、『扶桑の花』、『同窓会報告書』、『校友会雑誌』、『安積野』の校友会雑誌が発行されており、当時の状況を知る貴重な資料となっている。これらについて、比較的状態のよい明治期のものを外部にスキャニング発注し、今後の研究のための基礎資料とすることとした。

【4.　現段階で明らかとなっていること】

蔵書印では「福島県福島中学校印」、「福島尋常中学校印」、「福島県第一中学校印」、「福島県一中学校之印」、「福島県安積中学校印」、「若松中学校印」、「福島師範学校蔵書印」、「福島県開成山農学校」、「磐前件四番中学校印」、「若松県図書印」など、様々な中学校の印が押されていることが確認できている。このことは、旧制安積中学校の蔵書が様々な遍歴を経て、集まってきたことを示唆している。今後、さらに調査を進めて行く中で、当時の読書文化、学校文化を捉えることができるものと期待できる。